

報恩寺だより

大般若祈祷会勤修について

5月17日は、おたすけ観音の縁日です。皆様の家内安全、身体健全、諸災消除、諸縁吉祥を祈り、大般若祈祷会を次により行いますので、お誘い合わせのうえ御参詣くださるよう、ご案内申し上げます。

記

期 日 平成25年5月17日(金)

日 程 午後1時 御詠歌
午後2時 大般若祈祷会
午後3時 落語 隅田川 馬石 師匠
午後4時 小斎

祈祷料(2,000円)は、この報恩寺だよりを郵送した封筒にいれ、
当日御志納お願い致します。

特別御寄進

次の方々から特別御寄進を頂きました。各位の御芳志に感謝すると共に供養菩提のご冥福をお祈りいたします。

平成24年3月 山下 清司様	平成24年4月 笠間 功様	平成25年1月 岡田 駿様
平成24年3月 近藤 典章様	平成24年5月 武藤耕一郎様	平成25年2月 吉井 寿幸様
平成24年4月 笠間 博幸様	平成24年5月 橋川 稔様	
平成24年4月 笠間 厚夫様	平成24年6月 笠間 京子様	
平成24年4月 武藤 久雄様	平成24年7月 森山 信行様	

◆報恩寺年間行事予定◆

4月 8日	花祭り	12月 31日	除夜の鐘
5月 17日	大般若祈祷会	1月 1日	お年始詣り
8月 7日	大施餓鬼会	2月 10日	涅槃会
9月 17日	秋彼岸会法要	3月	春彼岸会法要
12月 5日	成道会		

No. 43
平成25年4月1日発行
おたすけ観音 報恩寺
綾瀬市寺尾南2-10-1
電話 0467-78-7160
FAX 0467-79-1567

最近、インターネットで反響をよんでいる、般若心経の現代語訳を紹介いたします。
若者向けの言葉使いになっていますが、簡潔で分かりやすくなっています。

般若心経 現代語訳

超スゲエ楽になれる方法を知りたいか?誰でも幸せに生きる方法のヒントだ。もっと力を抜いて楽になるんだ。苦しみも辛さも全てはいい加減な幻覚。安心しろよ。

この世は空しいモンだ。痛みも悲しみも最初から空っぽなのさ。この世は変わり行くモンだ。苦を楽に変える事だって出来る。汚れることもありや背負い込む事だってある。だから抱え込んだモンを捨てちまう事も出来るはずだ。

この世がどれだけいい加減か分ったか?苦しみとか病とか。そんなモンにこだわるなよ。見えてるものにこだわるな。聞こえるものにしがみつくな。味や香りなんて人それぞれだろ?何のアテにもなりやしない。搖らぐ心にこだわっちゃダメさ。それが『無』ってやつさ。生きてりや色々あるさ。辛いモノを見ないようにするのは難しい。でも、そんなもんその場に置いていけよ。

先の事は誰にも見えねえ。無理して照らそうとしなくていいのさ。見えない事を愉しめばいいだろ。それが生きてる実感ってヤツなんだよ。正しく生きるのは確かに難しいかもな。でも、明るく生きるのは誰にだって出来るんだよ。

菩薩として生きるコツがあるんだ。苦しんで生きる必要なんてねえよ。愉しんで生きる菩薩になれよ。全く恐れを知らないなら口クな事にならねえけどな。適度な恐怖だって生きていくのに役立つモンさ。

勘違いするなよ。非情になれて言ってるんじゃねえ。夢や空想や慈悲の心を忘れるな。それができりや涅槃はどこにだってある。

生き方は何も変わらねえ。ただ受け止め方が変わるのさ。心の余裕を持ってば誰でもブッダになれるんだぜ。

この般若を覚えとけ。短い言葉だ。意味なんて知らないていい。細けえことはいいんだよ。苦しみが小さくなったらそれで上等だろ。

嘘もデタラメも全て認めちまえば苦しみは無くなる。そういうモンなのさ。今までの前置きは全部忘れても良いぜ。でも、これだけは覚えとけ。

気が向いたら呟いてみろ。心の中で唱えるだけでもいいんだぜ。いいか、耳かっぽじつてよく聞けよ?

『唱えよ、心は消え、魂は静まり、全ては此処にあり、全てを越えたものなり。』

『悟りはその時叶うだろう。全てはこの真言に成就する。』

心配すんな。大丈夫だ。



得度式

平成二十四年八月七日、報恩寺本堂にて午後一時より加藤良興住職の孫である加藤太樹が副住職 加藤良隆を師匠（受業師）として得度をしました。

「得度」とは、正式な作法を通して、僧侶に相応しい姿となることによって、仏のみ教えを信じ、仏の徳を身に具えることを意味します。

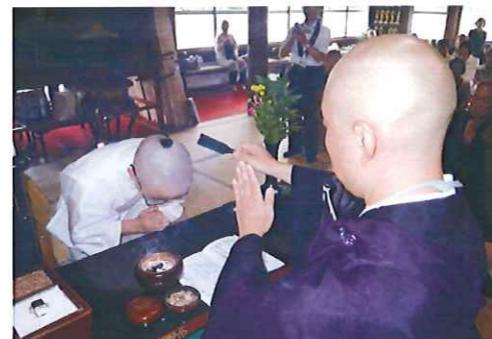
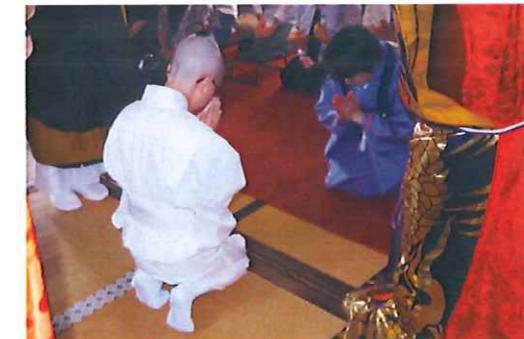
「得度」を受ける方を「発心の人」と呼びます。これは、「仏道への志」を発した人の呼称であり、念願叶つて得度される方の気持ちを汲んだ表現です。「得度式」とは、師匠（受業師）によって、髪を剃り落としていただき、衣、袈裟、坐具、応量器（食器、鉢^{はつ}）などの、僧侶が僧侶として生きていくために必要な最低限のものをいただきます。そして、更にお釈迦さま以来、歴代の祖師たちがひとえに伝えてきた「戒法」と「血脉」とを受けて、正式に僧侶の仲間入りをするのです。曹洞宗では特に、道元禅師や瑩山禪師が撰述された、『出家略作法』を重んじて儀式を行っています。

（曹洞宗宗務厅より）

太樹の得度式は、大施餓鬼会法要の前に総代、役員並びに檀信徒の皆様に見守られ厳粛に修行されました。

午後一時殿鐘の打ち出しと共に副住職をはじめ当役の者が本堂に入场したのち、授戒する太樹が侍者に先導され入堂しました。出家をして仮の弟子となり、今まで育ててくれた父母の前でその感謝の気持ちを込めてお拝します。

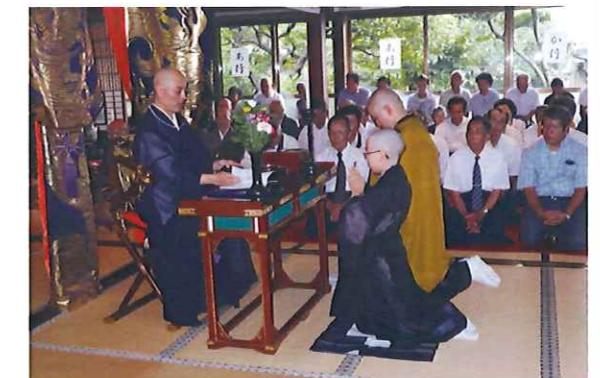
形式的には親元を離れ、新たな師のもとで修行をして行くことになるのですが、現状は特に変わることはありません。しかし、多くの方に見守られる中、頭頂部に一結の髪を残し、頭を剃り白衣姿で母親に今まで育ててくれた感謝



をこめお拝をする姿は尊いものでした。
そして、出家する強い志が有るか否かを確認したのち、最後に残した一結を剃り落とします。次に衣、お袈裟、応量器などを授け、仏弟子として相応しい姿とし、佛弟子として生きていくのに必要な菩薩戒を授けます。

最後に回向といつて、出家という素晴らしい儀式によつて得た功德を自分だけではなく、そこに参列した方々、さらには広く衆生に回らします。

この得度式をとおして、私自身も戒めを守り弁道精進していかなければならぬと感じました。



観音さまとカワセミ

毎年五月の大般若の頃になると、報恩寺本堂裏の池にカワセミがやってきます。

渓流の宝石と呼ばれているカワセミの撮影ができるのではないかとカメラを持って池に行くのですが警戒心が強くなかなか近づいていくことはできません。そこで、本堂の裏窓に三脚を据え、いつも池の真ん中に鎮座しますお観音様の頭の上にとまってから出入りをしているので、そこにピントを合わせ、タイマーをセットしインスターバル撮影をすることにしました。

カワセミがいない時にピントを固定するのでピントがずれてしまったり、カワセミの動きが早くぶれていたり、いろいろ失敗を重ね何回も撮影をしていくうちに、半分諦めながら千枚に及ぶデータをザック確認しているとメモリーカードの容量の終わりころに、何やら碧い影を発見、ゆっくり見てみると、一羽のカワセミが何かをくわえて写っています。

この撮影した静止画をつなげ動画にしてみるともう一羽が現れ、くわえているものを奪い取り食べてしまった様に見えます。それを動画投稿サイトにアップすると、知人から餌を奪い取ったのではなく「求愛給餌」という行動で、オスが獲物をくわえメスを誘い、それをメスが受け取るとカツプル誕生という瞬間だったことを教えてもらいました。



インターネットで「NHK特ダネ投稿DO画」から「カワセミの求愛の瞬間」で検索すると副住職が投稿した動画と平成二十四年六月十日にオンエアされた番組を見ることができます。

